



特許願

昭和 49 年 9 月 11 日

特許庁長官 三 喜 伸 殿

1. 発明の名称 天草の処理方法

2. 発明者 フリガナ 住 所 氏 名 特許出願人に同じ

3. 特許出願人 フリガナ オカルシイリフネ 住 所 小樽市入船3丁目1番地 氏 名 加藤 幸代

4. 代理人 住 所 札幌市中央区北1条4丁目3番地 中村ビル 氏 名 (6917) 井理士 川成靖夫

5. 添付書類の目録
(1) 明細書 1通
(2) 図面 1通
(3) 委任状 1通
(4) 願書原本 1通

明細書

1. 発明の名称

天草の処理方法

2. 特許請求の範囲

採取後さらしあがつた各種天草をクレープ状に切断し、適当量ミクスルし、これを包装することを特徴とする天草処理方法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は寒天製造の原料となる天草の処理方法を提供しようとするものである。

従来天草の処理については採取後、さらして塩分、不純物などを除去し、これらを圧縮したのちむしろなどで包装し、これが寒天製造業者に渡る。寒天製造業者は各種天草を混ぜし、再度水洗したのち煮つめ寒天を製造している。し

⑯ 日本国特許庁

公開特許公報

⑪特開昭 49-41198

⑬公開日 昭49.(1974) 4.17

⑫特願昭 47-91500

⑭出願日 昭47(1972) 9.11

審査請求 未請求 (全3頁)

府内整理番号 ⑯日本分類

184021

8C1

かし天草は包装するに際して圧縮してもその性質上一定以上は小さくならず、烹煮に対して容量が大きく、これが連続、格納に不便であつた。

本発明はかかる問題を充分解決しようとするもので以下図面を参照しながらその実施例の詳細を説明する。

採取後水などでさらしたのち、クレープ状に切断する。これを適当容量の袋などに収納包装する。この場合、容量は従来のものにくらべて約70%位小さいものとすることができますから格納運搬に極めて便利である。またこれら切断天草を各種混合したものをおつめることにより寒天を製造する。なお、この混合は包装前に行つてもよい。

本発明のものは上述のように構成されている

BEST AVAILABLE COPY

手続補正書

昭和47年11月5日

から、

A. 全体の容積を小さくすることができるから格納、運搬などに便である。

B. 寒天製造に関して各種の天草の混合が分量的に正確に行いうる。従つて混合ずみの天草を商品とすることができますから一般家庭での寒天製造が可能である。

C. 寒天製造工程での煮つめる段階で天草の繊維質が細かく切断されているから所謂のりがよく出て製品の分止りがよい。

など、数多くの利点を有する有用な発明と云うべきものである。

特許出願人 加藤 千代史

代理人弁理士 川成 靖

特許庁長官 三宅 勲

1. 事件の表示 昭和47年 特許第 91500 号

2. 発明の名称 天草の処理方法

3. 補正をする者 事件との関係 特許出願人

住所 小樽市入船3丁目1番5号

フリガナ カトウ ナオシ

氏名 加藤 千代史

4. 代理人

住所 060 札幌市中央区北1条西3丁目3番地 中村ビル 札幌 (011) 231-1681

氏名 (6917) 弁理士 川成 靖



5. 補正命令の日付 昭和 年 月 日 (自発)

6. 補正の対象

特許請求の範囲
発明の詳細な説明の範

7. 補正の内容 別紙のとおり

訂正明細書

1. 発明の名称

天草の処理方法

2. 特許請求の範囲

採取後さらしあがつた各種天草をクレープ状に切断し、粉碎機、又はミキサー機により粉末とし適量ミックスし、これを包装することを特徴とする天草処理方法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は寒天製造又はところてん製造の原料となる天草の処理方法を提供しようとするものである。

従来天草の処理については採取後さらして塩分、不純物などを除去し、これらを圧縮したのちむしろなどで包蔵し、これが寒天製造業者に

渡る。寒天製造業者は各種天草を混合し、再度水洗したのち煮つめ寒天、ところてんを製造している。しかし天草は包装するに際して圧縮してもその性質上一定以上は小さくならず、重量に対して容積が大きく、これが運搬、格納に不便であつた。

本発明はかかる問題を充分解決しようとするもので以下凹面を参照しながらその実施例の詳細を説明する。

採取後水などでさらしたのち、クレープ状に切断する。その後粉碎機又はミキサー機により粉末とする。これを適量の袋、ダンボールなどに収納包装する。この場合、容積は従来のものに比べて約70%位小さいものにすることができるから格納運搬に極めて便利である。

BEST AVAILABLE COPY

またこれら粉末天草を各種混合したものを煮つ
めることにより寒天、ところてんを製造する。
なお、この混合は各製剤に行つてもよい。

本発明のものは上述のように構成されている
から、

▲ 全体の容積を小さくすることができるから、
格納、運搬に便利である。

■ 寒天、ところてん製造に関して各種の天草の
混合が分量的に正確に行いうる。従つて混合
すみの天草を製品とすることができますから一
般家庭での寒天、ところてんの製造が可能で
ある。

○ 寒天製造工程での煮つめる段階で天草の繊
維質が粉末とされているから所要のりがよく
出て製品の分止りがよい。

特開昭49-41198(3)
など、数多くの利点を有する有用な発明と云う
べきものである。

特許出願人 加藤千代史

代理人弁護士 川成瑞夫

BEST AVAILABLE COPY